

# 宇宙物理学教室 銀河・観測装置グループ

長田哲也(教授・505号室:nagata@kusastro.kyoto-u.ac.jp) 太田耕司(助教授・407号室:ohta@kusastro.kyoto-u.ac.jp)  
岩室史英(助教授・401号室:iwamuro@kusastro.kyoto-u.ac.jp) 菅井肇(助手・511号室:sugai@kusastro.kyoto-u.ac.jp)  
富田良雄(助手・516号室:tomita@kusastro.kyoto-u.ac.jp)

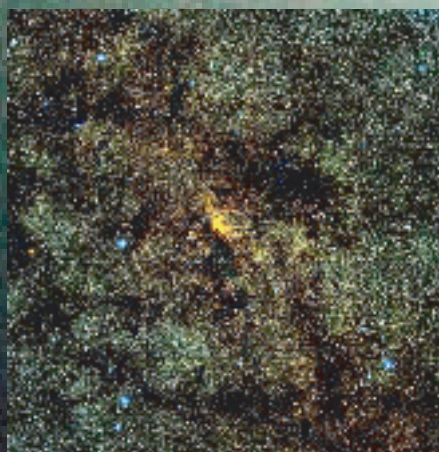
本グループでは国内外の望遠鏡を用いて様々な観測的研究を行っています。

- 銀河系及び銀河での星間ガスの存在条件や星形成過程
- クェーサー、AGNの宇宙論的進化
- 原始銀河とその諸性質

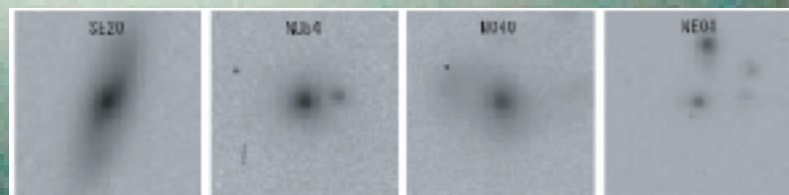
また、これらに関係して、以下の装置・望遠鏡の開発をしています。

- 京都大学3.8m望遠鏡
- すばる望遠鏡第二期観測装置FMOS
- 京都三次元分光器(3D II)
- チリ・アタカマ1m望遠鏡

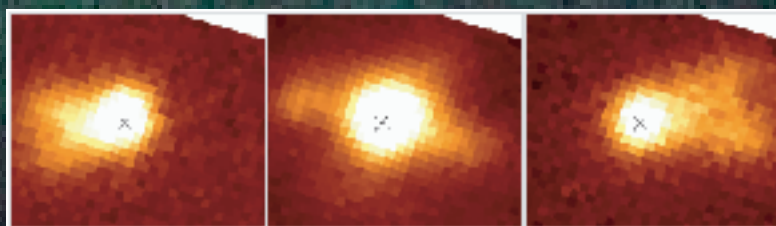
詳しくは下記オープンラボにて紹介いたします。



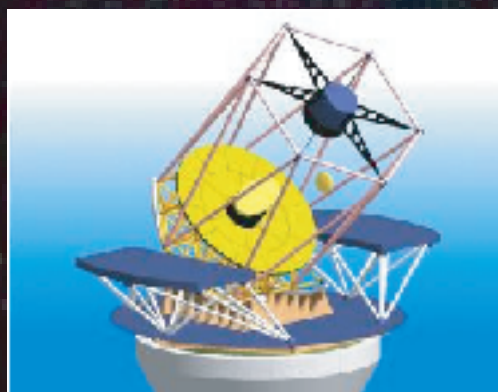
銀河系中心部のJHKs三色合成図  
銀河系中心部の若い星等を探すことにより、  
減光則や星形成史を明らかにしようとしている。



X線で選択した2型AGN  
母銀河成分を分離できるため、AGNと銀河の  
共進化を探る上で有効なサンプルである。



楕円銀河NGC1052  
ドップラー効果を利用してガスの進行方向を見る。左図が  
地球方向に近づくガス、右図は地球から遠ざかるガスの  
分布に相当する。銀河からガスが吹き出ているのがわかる。



京都大学3.8m望遠鏡(完成予想図)  
一枚の鏡で巨大望遠鏡を作るのは難しい。  
そこで複数枚の鏡を組み合わせて巨大望遠鏡を作る。  
この技術は将来の数十m級望遠鏡につながる。

## オープンラボ

- ・宇宙物理学教室合同ミニ講演会  
時間 11:00~12:40、13:30~15:10  
場所 4号館4階講義室(414号室)
- ・ポスターによる研究紹介(質疑応答あり)  
時間 随時  
場所 4号館5階会議室(507号室)